

2014 年度 小委員会活動成果報告

(2014 年 12 月 26 日作成)

小委員会名	クールルーフ適正普及小委員会	主 査 名：竹林 英樹 就任年月：2013 年 4 月
所属本委員会 (所属運営委員会)	環境工学委員会 (都市環境・都市設備運営委員会)	委員長名：田辺 新一 主 査 名：下田 吉之
設 置 期 間	2013 年 4 月 ～ 2015 年 3 月	
設 置 目 的 各年度活動計画 (箇条書き)	・一般の人にも判りやすく，クールルーフ化すべきかどうかを判断できるための各技術の特徴，評価方法，良い事例などを取りまとめ，適正な普及のためにどのようなことが必要であるかを議論する。	
委員構成 (委員名 (所属))	委員公募の有無：無	
	竹林英樹 (神戸大学)，三坂育正 (日本工業大学)，赤川宏幸 (大林組)，井原智彦 (東京大学)，梅田和彦 (大成建設)，小島倫直 (竹中工務店)，近藤靖史 (東京都市大学)，酒井孝司 (明治大学)，田坂太一 (建材試験センター)，西岡真稔 (大阪市立大学)，橋田祥子 (明星大学)，村田泰孝 (崇城大学)，森山正和 (撰南大学)，吉田篤正 (大阪府立大学)，吉永美香 (名城大学)	
設置 WG (WG 名：目的)		
2014 年度予算	100,000 円	ホームページ公開の有無：有 委員会 HP アドレス： http://news-sv.aij.or.jp/kankyo/s22/

項 目	自己評価
委員会開催数	5 回 (年度内計画を含む)
刊行物 (シンポジウム資料等は 除く)	
講習会	
催し物 (シンポジウム・セミナー等) *能力開発支援事業委員会 承認企画	クールルーフの適正な普及に向けたシンポジウム 参加者数 大阪：62 名，東京：94 名，北九州 36 名 合計：192 名
大会研究集会	
対外的意見表明・パ ブリックコメント等	「クールルーフガイドブック」の普及に努めた。
目標の達成度 (当初の活動計画と得ら れた成果との関係)	各委員の調査結果，測定結果などに関する情報交換が実施された。 国際会議において「クールルーフガイドブック」を紹介し，高い評価を得た。
委員会活動の問題点 ・課題	「クールルーフガイドブック」の更なる普及が今後の課題である。

* 小委員会活動成果報告書は本書式を基本とする。ただし、それぞれの本委員会において活動実績を報告する共通項目があれば、最下段に項目を追加して記述してもよい。

* 表中の「(書名)」等の赤文字は、記述を誘導するための説明である。記載の有無にかかわらず最終的には削除のうえ提出すること。

- * 小委員会活動成果報告書は本書式を基本とする。ただし、それぞれの本委員会において活動実績を報告する共通項目があれば、最下段に項目を追加して記述してもよい。
- * 中間年度には中間評価を、最終年度には最終評価としての自己評価を記入すること。

環境工学委員会用 自己評価欄

2014 年度 小委員会活動 自己評価 (最終年度評価)

総合評価 (4 段階評価)	A
総合評価に関する 自由記述欄 (理由、特記事項等)	<p>クールルーフの適正な普及に向けて、高反射率防水シート及び高反射率塗料の汚れによる反射率低下の実態、評価方法、促進試験について、三坂幹事、三木氏より話題提供頂き、継続的に議論を実施した。併せて、アメリカでの促進試験方法の開発状況や ISO に向けた検討状況についても情報収集と意見交換を行った。新たに委員に加わって頂いた井原委員、吉永委員より関連する研究について話題提供して頂き、太陽エネルギー利用に関する新たな情報の収集と討議が行われた。</p> <p>企画刊行運営委員会のクールルーフガイドブック小委員会（近藤主査）より出版した「クールルーフガイドブック」の普及に向けて、同小委員会と共催で「クールルーフの適正な普及に向けたシンポジウム」を大阪、東京、北九州で開催し、合わせて 192 名の参加者を集めた。</p> <p>初年度の 9 月にアテネで開催された第 2 回クールルーフ会議に竹林主査が参加して収集したヨーロッパ、北米における関連分野の研究情報を小委員会で報告し、意見交換を行った。また、今年度の 10 月にベニスで開催された第 3 回都市ヒートアイランド対策国際会議に竹林主査、井原委員、吉田委員、三木氏が参加し、「クールルーフガイドブック」を紹介するとともに、日本の関連技術の開発状況などを発表し、情報交換を実施した。会議では、当該分野における日本のこれまでの寄与が評価され、日本人研究者全体に対してアワードが贈られた。</p> <p>都市環境・都市設備運営委員会主催の第 2, 3 回都市環境デザインフォーラムに向けて、小委員会としての寄与や話題提供の可能性について継続的に議論を行った。</p> <p>小委員会と同日に企画刊行運営委員会のクールルーフガイドブック小委員会を開催し、多くの委員の参加を促進するとともに、関連する情報の収集と共有化を図った。</p>

- 総合評価は 4 段階(A>B>C>D)にて、自己評価すること。
- 中間年度における自己評価は、単年度の活動計画・目標に対する達成度にて、最終年度における自己評価は、小委員会の設置目標に対する達成度にて評価する。自己評価の目安は以下の達成度レベルを参照のこと。
 - A 評価：小委員会設置目標に対し、80%以上の達成度
 - B 評価：小委員会設置目標に対し、70%から 80%の達成度
 - C 評価：小委員会設置目標に対し、60%から 70%の達成度
 - D 評価：小委員会設置目標に対し、60%以下の達成度
- 小委員会の活動に対し、第三者的評価・外部評価（シンポジウム、セミナー等の催し物を開催した場合に収集した参加者の評価など）に相当する情報がある場合には、その内容も記述すること。